

ISSN 0910-2396

野鳥だより

—北海道—

北海道野鳥だより第140号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成17年6月21日

コヨシキリ



2004. 7. 7 石狩市美登位 撮影者 石田典也

〒005-0002 札幌市南区澄川2条4丁目

14-10-401



も く じ

冬山で出会ったエゾライチョウ	白澤 昌彦	2
中空知地方の野鳥たち	滝川市 越後 弘	3
伊達市におけるコクマルガラスの観察記録		
日本野鳥の会室蘭支部	篠原 盛雄	4
亜種ノドアカツグミとの遭遇		
	滝川市 越後 弘	5
レンジャク類渡来確認なし、夏鳥の越冬		
ーちょっと変わった04-05冬ー	広 報 部	6
営巣ブロックとカワセミの繁殖		
株式会社 建設維持管理センター代表取締役		
	工藤 昇	7
鳥の呼称について	佐藤 幸典	9
平成17年度総会報告		10
探鳥会ほうこく		11
鳥 民 だ よ り		16
探鳥会あんない		16

冬山で出会ったエゾライチョウ

白 澤 昌 彦

エゾライチョウは野幌森林公園でも以前観察されていたが、1980年（昭和65年）10月を最後に、その後記録がない鳥となっています。

私は野鳥を見るほか、山歩きも楽しんでおり山行の途中でのいろいろな鳥たちとの出会いもまた楽しいものです。市内でのこの鳥に関する私の観察記録では、平成7年6月に藻岩山で雌雄2羽を見ており「久しぶりのエゾライチョウ」と記録してある。そのほかに、国際スキー場側から春香山に登る林道途中や西区の手稲平和霊園から百松沢山に登る宮城の沢でも見ているがそう簡単には見られなくなってきています。春山の場合、この鳥がしたカリントウのような多量の糞で生息していることを確認することも出来ません。最近久しぶりに見たエゾライチョウの話をいたしましょう。



エゾライチョウ 筆者撮影

南区の豊羽鉦山の自家発電施設がある所から登っていく美比内山(1,071m)という山があります。豊羽鉦山は来年少閉山するという新聞記事を読んで、来年はここからの山登りは出来なくなるかもしれないという単純な発想のもと平成17年2月26日に登りました。前日の天気予報は「雪」で今冬はかなりの降雪に見舞われているので、山頂まで行けるものか心配でしたが朝起きると晴れていました。山歩きは晴れると山頂からの景色が楽しめるので元気が沸いてくるものです。

気温も低く、サラサラの新雪が結構深い。ラッセルの跡がなく、本日の登山者は私たちだけのようです。ゆっくりと高度を上げていく。そのうちに山頂方向と反対の背中側に定山溪天狗岳が見えて来た。進路を尾根伝いに取り、台地状のところにと北からの風が強くヤッケを着直し、最後の急な斜面を目指していく。辺りは太いダケカンバとトドマツ等の針葉樹が生育していて、ダケカンバの幹にはたくさんの雪が巻き付き針葉樹は葉一面に雪をつけ重そうに枝を垂れ下げていた。そのうちにトドマツの木から大型の鳥が1羽飛び出し別な木に移っていった。そのとき尾羽が扇状に見え先端が黒い帯状を確認、その大きさや重たそうな飛び方や飛行距離からエゾライチョウであることが分かった。さらに進むと別な1羽が木から飛び出し同行の人たちも見ることができた。

この山は人がすぐ近くに住んでいるのに何故かキツネの足跡が全く見当たらない。テンの足跡もない。足跡と言えはユキウサギのものだけであった。最近キツネが増えたせいか近郊の山の低い地点では足跡が見られなくなってきて

いる。今から30年くらい前には中央区の旭山公園の裏手にも足跡が見られ、キツネに殺され頭と内臓を食べられた後食べ切れなかったのか、口にくわえて引きつった跡やそれを貯食するため雪の中にうずめたユキウサギを見つけたものです。珍しかったので何枚も写真を撮って埋め返しておきました。冬山は雪の上にこうした動物たちの行動を記録してくれるので、このようなことも楽しみの一つです。

さて、最後の登りに差し掛かったところ、ラッセルをしていた人が突然驚いて声を出したので前方を見るとエゾライチョウが飛び去っていきました。更に少し進んだところで今度は左手の何も見えなかった雪面から急にエゾライチョウが飛び出て行きました。エゾライチョウを見ているのは夏に多く冬の生態を知らなかったが、本で調べてみると吹雪の時などに積もった雪の中にもぐって寒さを防いでじっとしていると書かれている。飛び出した窪みを見ると長径が18センチくらいで、深さが20センチほどで中には爪で引っ掻いたような足跡が残っており、2羽目の鳥は熟睡でもしていたのか、人の近づくのに気付いたのが遅く、窪みから

這い出る余裕もなかったようで、窪みの両側に翼の跡を残していた。このエゾライチョウは、キツネが来たとも思い込み驚愕の中で必死になって捕獲から逃れようとしたのだと思う。1羽目の窪みを見るとこちらは早めに気付いたのか、翼の跡はなく窪みから這い出して飛んで行ったことが分かる。窪みに入って眠れるということは、やはり天敵がない場所なのかもしれない。窪みは結構深いので、どの程度頭を埋めていたのか分からないけれど、結構危険な行動のようにも思えた。

その後のエゾライチョウの休んでいた窪みの写真を記念に撮ってもらい、最後の急なぼりを終え、山頂に到着した。登山開始から2時間30分かかっていた。周囲を全望することが出来、北側に山頂部が真白な余市岳やその右隣に白井岳、さらにその右手の奥に定山溪天狗岳、烏帽子岳、神威岳と続き南側には無意根山、中岳が見える。汗をかけた甲斐があり、素晴らしい景色を堪能できた1日でした。

〒064-1917 札幌市中央区南17条西18丁目2番20号

中空知地方の野鳥たち

滝川市 越 後 弘

私の住む滝川市は、空知川と石狩川の二大河川が街の両側を流れ、砂川市との境で合流している。山と呼べるほどの高さの山はなく、江部乙地区に広がる丘陵と田園地帯が市街地を囲んでいる。河川敷に広がる草原や河畔林のほか、河川改修工事が残った河跡湖、江部乙地区にある丸加高原などが仲間との探鳥地である。

私の所属する日本野鳥の会滝川支部では、これらの場所のほかに芦別、雨竜、浦臼、砂川など広範囲で月例探鳥会を行っている。海がないので海鳥や干潟の鳥は見られないが、まれにカモメ類が飛来したり、南下する途中のシギチが少数だが記録されている。

草原性の鳥は減っている。モズ、シマアオジ、カッコウなどは十年前に比べると少ない。河川敷が草地組合に貸与されているのだが、一番草の収穫時期が早くなり孵化した頃に草刈作業が始まるのでかなわない。河川事務関係者と折衝して牧草地の一部を残すよう働きかけているが、実現は難しい。堤防は国の方針で法面がなだらかで長いスーパー堤防になってからは、四輪駆動車で縦横無尽に堤防を上ったり降りたりする輩が後をたたく、ゴミの不法投棄とともに頭痛の種である。さらに、犬を自由に走り回らせる人や、ハングライダー、ラジコンなど趣味の多様性で河川敷が

多くの人々に利用されることにより、鳥たちの生活が常に脅かされ、彼らもほとんど困り果てていることだろう。

逆に増えているのはアオサギ。江部乙、空知太にコロニーがあり一部は越冬している。年々営巣地が拡大される傾向で、今年からは砂川市に新たなコロニーが出現した。イネを踏みつけるなどの農業被害が増え、農家からすっかり嫌われている。低農薬で田んぼに餌となる生物が増え、川より楽に大量採餌ができるので繁殖率が高まったものと思われる。

森林性の鳥の観察記録は年によって多少の増減はあるが、夏鳥の場合は越冬地の環境変化に左右されると思われる。特筆すべき種はないが概ね道内で見られるものは出揃う。

渡りの時期にはガンやハクチョウが市街地の上空を飛び、朝の散歩の人たちが隊列にやさしく手を振る。これも大きな川を二つも持つ市民の特権と嬉しくなる。

二十年近く見続けた野鳥の観察記録を今年中にデータベース化する作業を進めており、図表などを交えて次回はまだ少し説得力のあるお話を伝えられると思う。

〒073-0021 滝川市本町2丁目6-28

伊達市におけるコクマルガラスの観察記録

日本野鳥の会室蘭支部 篠原盛雄

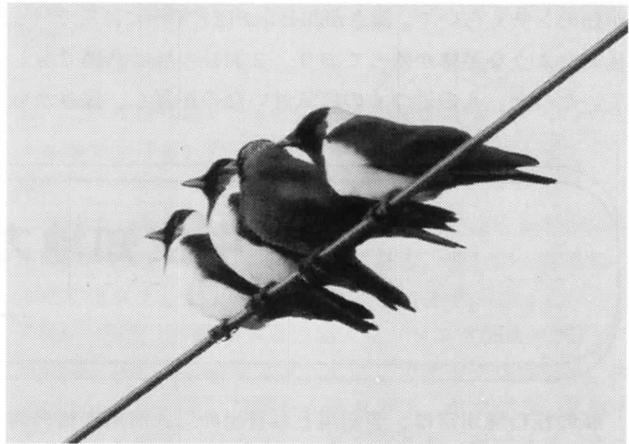
1996年から始めた伊達市における野鳥観察記録は10年になります。北海道内では気候が温暖で、積雪の少ない伊達市において、1997年2月23日長流川河口西側田んぼで初めて越冬ミヤマガラス5羽を確認し、それ以来、気をつけて田んぼでミヤマガラスの観察を続けて来ました。翌年観察を続けていると1998年2月26日にはシーズン中最大数200羽をカウントしました。

ミヤマガラスの群れに入ることが多いといわれているコクマルガラスは、1998年11月8日伊達市館山の畑で暗色型1羽が初めて観察され、さらに同年11月23日長流川河口西側田んぼでミヤマガラスの90羽の群れの中に、暗色型1羽が確認されました。ミヤマガラスは1997年からの観察記録を見てみますと、年々増加傾向にあります。本格的に観察を始めた1998年の最大数200羽から2004年は700羽に増加しました。2005年は600羽でした。ミヤマガラスの越冬数の増加に伴いコクマルガラスの観察数も増加傾向にあります。おおよそミヤマガラス100羽に対しコクマルガラス1羽の割合で観察されるようです。ミヤマガラスの群れに紛れているコクマルガラスは、餌場として、積雪のない田んぼを利用しながら、伊達地域を広い範囲移動して越冬します。警戒心が強く、動き回る数百のミヤマガラスの群れの中から、コクマルガラスを正確にすべて数え上げることは難しいことですが、表1に観察できた個体数を示しています。

不定期の観察のため断片的なものですが、およその傾向は掴めると思います。

伊達市においてはミヤマガラスの越冬数増加に伴いコクマルガラスが毎シーズン観察されるようになりました。ここ2冬は連続して数羽の単位で越冬しています。今後とも越冬環境変化のない限りこの傾向が続くのではないかと考えられます。

〒052-0021 伊達市末永町97-83



コクマルガラス（暗色型と淡色型）
2005年1月7日 伊達市 筆者撮影

表1 伊達市におけるコクマルガラスの観察数

年	月 日	場 所 ¹⁾	総 数	暗 色 型	淡 色 型	ミヤマガラス ²⁾
1998年	11月8日	館山の畑	1	1	0	200
〃	11月23日	長流川西田んぼ	1	1	0	
1999年	12月29日	〃	2	2	0	350
〃	12月30日	〃	3	3	0	
2000年	12月17日	〃	1	0	1	540
2001年	1月16日	有珠アルトリ海岸	1	0	1	
〃	10月27日	長流川西田んぼ	2	2	0	300
2003年	3月9日	〃	1	1	0	500
〃	11月11日	〃	7	5	2	700
〃	12月29日	〃	9	6	3	
2004年	1月6日	〃	6	6	0	
〃	2月21日	〃	2	0	2	600
〃	11月23日	〃	2	1	1	
2005年	1月5日	〃	5	3	2	
〃	1月7日	〃	5	2	3	600
〃	3月10日	〃	6	2	4	
〃	3月16日	〃	4	4	0	

1) 環境省メッシュ番号

館山の畑：6340-5689、長流川西田んぼ：6340-5686、有珠アルトリ海岸：6340-5694

2) シーズン中の1回の観察で見られたミヤマガラスの最大数（概数）

亜種ノドアカツグミとの遭遇

滝川市 越後 弘

2004年11月ころからの記録的な大雪は、2005年3月半ば近くになっても勢力が衰えず、3月10日も朝から断続的に降雪が続いていた。

その日の午前11時ころ、新十津川町中央（北海道空知支庁管内）に住む知人の笹野政美さん（日本野鳥の会滝川支部会員）から、「庭に見慣れない鳥が来ていてヒヨドリやムクドリと一緒にリンゴをつついているが、名前が分からない」と電話があった。ムクドリとほぼ同大、喉から胸が赤褐色、飛んだときに尾羽がきれいな薄茶色に透けて見える、胸を張ったような姿勢でとまるなどの特徴を聞き出し、ハチジョウツグミでは？と返事をした。

翌3月11日の朝、笹野さんから「どの図鑑を見ても載っていないし、胸の模様はコマドリのように腹のところではっきり分かれている」と再び電話があった。そこで、手元の図鑑数冊とビデオカメラを用意して笹野さん宅に行ってみると、なるほど見慣れない模様をした鳥がいる。文一総合出版の「日本の鳥550 山野の鳥」には、亜種ハチジョウツグミで似た写真があるが、目の前にいる個体は腹部の斑がはっきりとは目立たない。でも、もともとツグミは個体変異が多く、亜種ハチジョウツグミも亜種ツグミとの中間的なものもあるなどの記述がある。ノドグロツグミのページには、亜種ノドアカツグミも掲載されているが、模様も色合いも相当違っていた。しかも日本ではこれまでの観察記録が10例以下ということを示す×印が付いている。そんなことから、私の持っている資料では断定しかねたが、ハチジョウツグミの若鳥かも知れないと結論付けた。

胸の模様が特徴的だったので撮影したビデオテープをハチジョウツグミとしてNHK札幌放送局に送ったところ、

4月5日夕方のニュースの時間に全道放送された。ところが翌日、テレビをみた視聴者から亜種ノドアカツグミではないかとの問い合わせがNHKにあり、驚いた担当者が山階鳥類研究所にデータを送ったところ、ほぼそれに間違いのないとの回答があった。さらに北海道環境科学研究センターの梅木賢俊氏に映像を見てもらい、確かに亜種ノドアカツグミで、北海道初記録とのご教示をいただき、4月19日、鳥名が訂正されて再放送された。

内陸の中空知にどのようにして迷い込んだのか不明だが、3月10日から14日まで5日間の滞在のあと無事に目的地に着いたか笹野夫妻は今も気にかけている。私にとっても、還暦の誕生日に思いがけない迷鳥と遭遇できた偶然に驚き、笹野さん及びNHKに問い合わせしてくれた方に感謝する次第である。

〒073-0021 滝川市本町2丁目6-28

【編集部注】日本で見られるノドグロツグミには、亜種ノドグロツグミと亜種ノドアカツグミの2亜種がいます。どちらも希にしか見られません。北海道では、同一個体かもしれない亜種ノドグロツグミが1979年と1980年の2年続けて札幌市豊平区平岸で確認されていますが（北海道野鳥だより第36号、1979、同第42号、1981）、亜種ノドアカツグミについては確認記録はありませんでした。1980年に江別市で観察という記録はありますが、これはハチジョウツグミの誤認とされています。亜種レベルですが、今回のものが北海道初記録となります。全国的にも貴重な記録と考えられます。



ノドグロツグミ（亜種ノドアカツグミ） 2005年3月11日 新十津川町中央 筆者撮影ビデオから

レンジャク類渡来確認なし、夏鳥の越冬

— ちょっと変わった04-05冬 —

広 報 部

2004年から2005年にかけての冬はいつもの冬とはちょっと違っていました。今年3月18日の北海道新聞朝刊(札幌圏)に「異変 冬の野鳥まばら」という記事が掲載されましたが、もっとも特徴的なことは、レンジャク類の渡来が確認されなかったことです。その一方、メジロとアオジなどの冬季記録が寄せられました。ここではそれらについて紹介します。

レンジャク類の渡来確認なし

いつもの冬は北海道にはキレンジャクとヒレンジャクが渡来します。キレンジャクの方が多く、年によっては千を越すような群れが電線にズラッと並んだりします。ところが、04-05冬には渡来が全く確認されませんでした。レンジャク類はもともと渡来数の年変動が大きい鳥ですが、全く来ない冬がこれまでにあったかどうかは、記録として残されているものがないため何ともいえません。

レンジャク類は北海道より北の地域で繁殖し、秋になると南へ移動するのですが、北の地域で彼らの餌となるナナカマドの実などの液果が豊作であれば、そこにとどまって冬を越すものと思われます。この冬はきっと北方で餌が豊富だったのでしょう。冬の渡来を楽しみにしていた人も多かったでしょうが、レンジャク類からみれば、あまり長距離の移動をしなくても冬を越せたのですから、楽な冬だったかもしれません。

メジロの冬季記録

札幌市豊平区にお住いの中村真樹子さん(日本野鳥の会札幌支部)から冬のメジロの写真が寄せられました。豊平公園に設置された餌台に2004年12月19日に2羽、2005年1



メジロ 中村真樹子さん撮影

月4日に1羽が来て、餌台のリンゴを食べていたとのことです。北海道野鳥図鑑(河井ほか、2003、亜璃西社)には、「夏鳥または周年」と書かれており、また、愛護会会員の中には、個人的には冬にメジロを見たことがあるという人もいるようです。でも、おそらく希なことと思われます。1月4日の後は確認されていませんが、北海道のどこか別の地で越冬したかもしれません。

アオジの冬季記録

千歳市の島崎康広さんから、お知り合いで同じく千歳市の中島房子さんが2005年2月8日、14日、16日に千歳市青葉公園で撮影したアオジの写真が寄せられました。いずれも雪が背景になっています。島崎さん、中島さんとも、「冬にアオジが?」「もしかしてマヒワでは?」と思ったそうですが、確かにアオジでした。北海道でのアオジの越冬については、過去に風聞的なものはありますが、印刷物として残された記録はないようです。

このアオジは3月初めまでは毎日のように見られたそうですから、越冬としてさしつかえないとみなされます。



アオジ 中島房子さん撮影

他に、写真はありませんが、会員の横山加奈子さんから、札幌市北部の創成川でのオオパンの越冬記録が寄せられています。北区篠路付近、茨戸川との合流点付近での観察ですが、1月初旬から3月中旬まで、もっとも多い時には4羽が確認されたとのこと。2005年1月14日の北海道新聞夕刊(地方版)には、大沼公園(渡島管内)に十数羽のオオパンが居ついていることが紹介されました。

野鳥の社会にもいろいろあるようです。おや、こんなことがということがありましたら、愛護会広報に是非ご一報下さい。

営巣ブロックとカワセミの繁殖

株式会社 建設維持管理センター代表取締役 工藤 昇

札幌北部の茨戸川にコンクリートブロック構造のカワセミ営巣ブロックが設置されています。この営巣ブロックは、平成6年に北海道開発局石狩川開発建設部札幌河川事務所が、建設維持管理センターの提案により、設置されたものです。

この営巣ブロックとその構造は、平成4年、旭川において石川信夫・工藤昇（筆者）の共同発明により、北海道開発局旭川開発建設部が特許取得したもので、爾来、全国において普及しております。

茨戸川のブロックによるカワセミの営巣繁殖は、平成7年4月から継続して行われているもので、私の観察記録は、平成11年から続いており、それらの概要についてご紹介をさせていただきます。

【営巣ブロックの開発の切っ掛けとなった理由、構造の概要及び効果】

私とカワセミとの出会いは、平成4年旭川市において、荒廃した河川の河道整正工事を行っていた際に、市民から、そこはカワセミが営巣繁殖しているところなので注意してほしいとの忠告を受けた時からです。工事を中止したものの、市民の防災と自然環境保全との兼ね合いで随分と悩みました。

鳥類の専門家である石川信夫先生にご相談を申し上げたところ、先生も共通の課題を持っていました。

先生は生態学の観点から、私はブロック構造の観点から役割を分担し、種々の工夫をしたブロック構造を設計し、旭川開発建設部が特許を取得しました。

カワセミによるブロックの使用は、時を待たず設置終了と同時に行われ、如何に困って居たかの証しのように感じ感激しました。

【茨戸川のカワセミ観察記録の概要】

平成11～16年の6カ年間に於ける茨戸川営巣ブロックの繁殖パターンを図2に示しました。

観察には多少の不明確なところもありますが、総じて産卵数は3～7個（毎日1個の産卵）、抱卵21日後にふ化、給餌21～22日で1日はほとんど餌を与えず24日目に巣立つようです。

番の継続性の確認については困難性を極めますが、1度だけ或るバンダーによって足環の付いたカワセミの♂が明るる年も営巣ブロックで繁殖しました。なお、繁殖パターンは2回/年と3回/年、開始時期については気候

との関係で多少相違が見られます。

【カワセミの習性とその魅力】

カワセミの習性の概略を表1に示しました。以前から越冬するカワセミの情報が伝わっていましたが、最近になって越冬するカワセミの写真が公開されるようになりました。

私が捉えているカワセミの魅力は、i 希少で貴重な存在感があること、ii 綺麗なこと、iii 素早いこと、iv 特別な生活習慣の行動パターンでかつ複雑であること、v ごまかしを許さない毅然とした行動パターン、vi 必死の種の保存など伝統的習性の持続性について、人間界が大いに学習すべきところがあるように見えます。

繁殖行動パターンとしては、①♂♀共同で巣づくり、②♀の厳格な検定、③♂求愛給餌と♀の受け入れ、④合意の交尾、⑤交替抱卵、⑥ふ化後の給餌、⑦巣立ち後の訓練などですが、見事な共同作業を成しています。

【自然界の営巣・繁殖条件と課題】

カワセミが自然の中で営巣・繁殖する場合の条件としてはおおよそ以下の6項目が挙げられます。

- (1) 懸崖（切り立った崖）部があること。
- (2) 懸崖の土壌が粘土質で、石や木などの不純物が混入していないこと。
- (3) 懸崖部の壁は崩れていない新鮮な状態であること。
- (4) 河川の増水時に水没せず、天敵であるキツネ、イタチ、ヘビなどに襲撃されないこと。
- (5) 周辺には餌となる小魚等や水生動物が豊富な場所であること。
- (6) 子育て中、安眠・休息できる茂みがあること。

自然界における営巣の課題は、従来、河川水辺の崖地に多く見られたものが、近年、都市部においてはその光景が殆ど見ることができなくなりました。迷走しているカワセミを見ると、住宅難の厳しさが伝わってきます。

【カワセミ営巣ブロックの利点と課題】

「営巣ブロックの利点」

巣穴の利用は、自然のものが1～2年に対し、営巣ブロックは10年以上使われ、さらに継続しています。自然との相

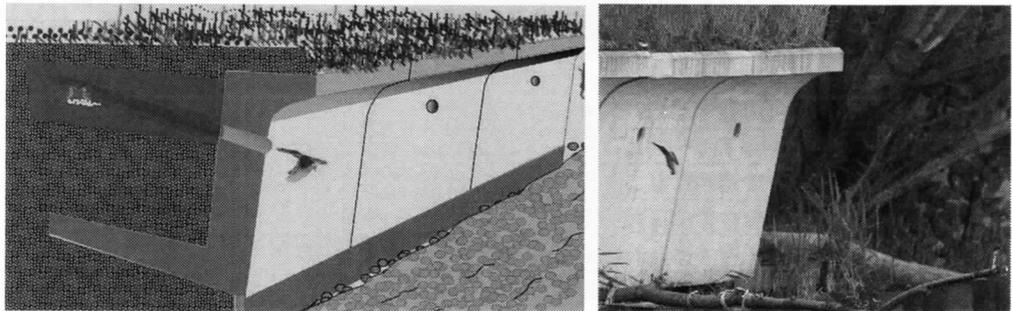


図1 営巣ブロックの構造と営巣イメージ図

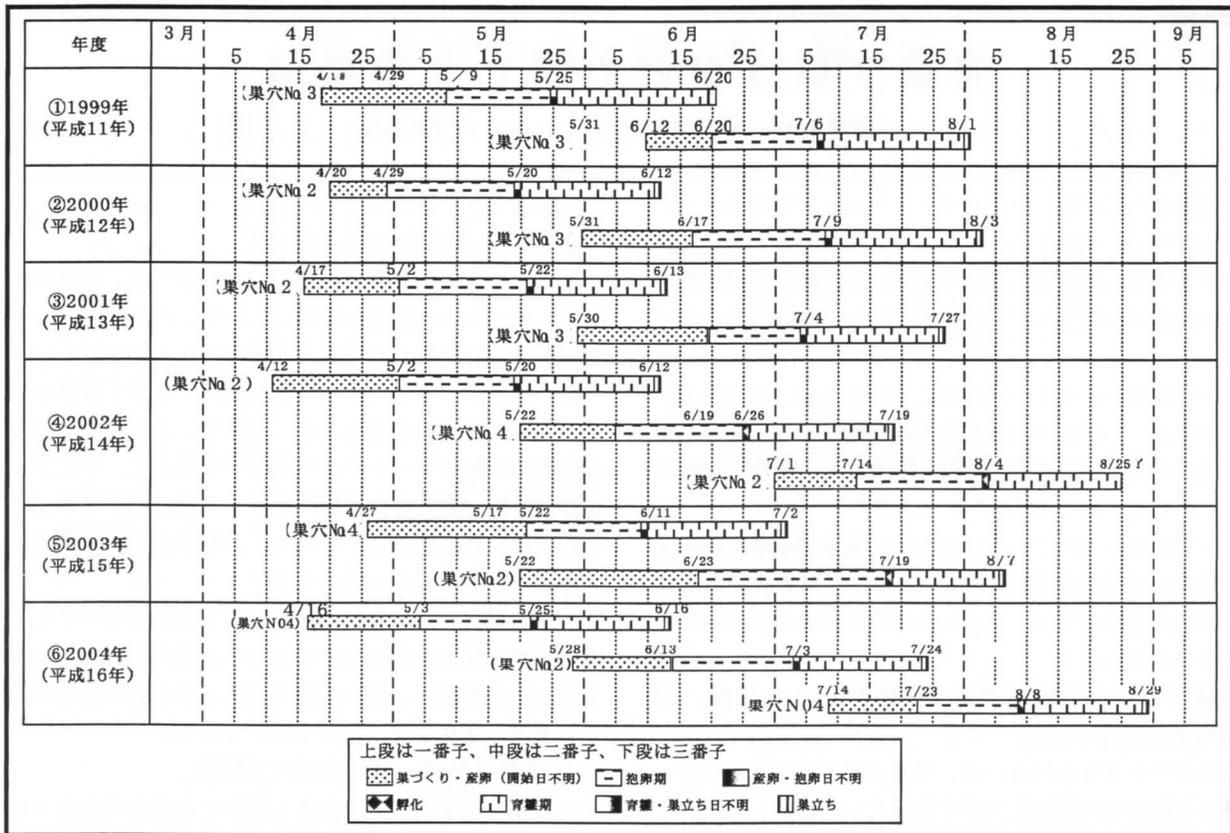


図2 繁殖パターン

違点としては次のようなことが考えられます。

- (1) 土壌を篩い分け（不純物除去）ることによって純正な土壌を配置できる。
- (2) 壁はコンクリートのため崩れることはない。
- (3) 巣穴の入口は劣化することはない。

「営巣ブロックの課題」

- (1) 巣穴を妨害する根毛の切断除去や土の置き換えを適度に行う必要がある。
- (2) ブロック重量が重く、設置について課題がある。

【カワセミから学んだこと】

私の都合10年を超えたカワセミの観察の体験から、以下

について、生物生存の基本を学んでいます。

- (1) ♂♀の役割がきちんとし、トラブルも無く、忙しさの中、円満に過ごしている。
- (2) ♂は♀に対してプレゼントや求愛などの基本手続きを怠ることがない。
- (3) 子孫繁栄に命をかけ、安易な妥協は絶対に許さない。
- (4) 安全警戒を絶対緩めない。
- (5) とも角♂は働き、♀への気遣いと愛情が緩まない。
- (6) 次年度使用予定の巣を♂♀ペアで必要以上丹念に復習確認して去る。

表1 カワセミの習性

	項目	記	事
態 様	生息時期	北海道では4～9月までの繁殖期に良く見られる	
	大きさ	♂♀とも17cm、雛も同じ大きさ、嘴4cm	
	嘴の色	♂は嘴上下とも黒色、♀は上嘴黒、下嘴オレンジ	
	体の色	尾は金属光沢の緑、背中中はコバルト色、胸から上腹は橙色、頸と喉は白い部分、雛は黒ずんでいる	
	鳴き声	「チー」、「チーッ」、「ツッチー」と金属音	
繁 殖	餌の種類	川魚、カエル、エビなどを叩き殺してから食べる	
	繁殖場所	河川等水辺に近い粘性土の懸崖部	
	繁殖時期	4月下旬～8月下旬、標準2番子、ただし1番子で終わる場合も3番子まで行っ場合もある	
	繁殖活動	番で適地探し、巣穴掘り、求愛給餌、交尾、産卵、ふ化、巣立ち	
	特徴	1組の番で広範囲なテリトリーをもって生活する	
産 室	トンネル	直径約4cm、長さ約50～100cm、仰角約15～20°	
	産室	7～8羽の育雛可能な大きさ、産室にペリットを敷詰めている	

生息地域：北海道は主に繁殖で渡りと言われていたが、越冬も確認されるようになった。
本州は留鳥で周年みることが出来る。

【カワセミ観察における私の雑感】

(1) 観察記録の記帳

行動パターン(①巣づくり、②産卵、③抱卵、④ふ化、⑤巣立ち、⑥巣立ち後の行動)を的確に把握する。そのために必要な行動をメモする。

(2) 観察に必要な用具

①双眼鏡(7~9倍で明るいレンズ)、②記録帳と鉛筆、③野鳥図鑑、④フィールドスコープ(20~40倍)、⑤腰掛け、⑥カメラ(デジタル、望遠200~300ミリ)、⑦ブラインド(鳥の警戒よけ、寒さしのぎ)、⑧暖かい服装 その他

(3) 他の野鳥の観察記録

抱卵期は、十分なゆとり時間が持てます。その際、野鳥図鑑を手元に、視野に入った野鳥や囀りを聞きながら、記録してみることも楽しいものです。その際、どんなところに何羽位いたか、何をしていたかなども簡単にメモしていくと興味も倍加します。

【周辺から消えた野鳥】

原因のほどはよく知りませんが、オオジシギのザザザザ・・・というディスプレイ音や平成15年7月3日を最後にシマアオジのヒーヒーチョリチョリチョリというかんだかい鳴き声が私の耳から途絶えました。

【会社の取り組み】

発明者工藤の意向により(株)建設維持管理センターは、カ

ワセミの種の保全のため、下記を行っています。

(1) 止木の補修

止木は2~3年に1度の補修が必要です。

(2) 巣穴の根毛除去

草の根毛は巣穴を塞ぐことになり、カワセミが嫌います。特殊カッターで削除しています。

(3) 土の置き換え

設置後7年目の平成13年に土の置き換えを行いました。

(4) カワセミ研究会の事務局

カワセミ研究会(会長:石川信夫、会員数:125名)の事務局をしています。



図3 カワセミ♀の給餌

鳥の呼称について

佐藤 幸典

皆さんは普段エナガや、カケス、フクロウを見たとき、何と呼んでいますか。シマエナガ、ミヤマカケス、エゾフクロウと呼んでいますか。シマエナガ等と呼んでいる人に、それではアカゲラはどうしてエゾアカゲラ、オオアカゲラはどうしてエゾオオアカゲラと呼ばないのですか。

知っている亜種名は亜種名で、知らない亜種名は種名で呼んでいるのが現状です。種名も亜種名も混ぜて呼んでいるのは統一性に欠けています。そして、初心者が図鑑で索引を調べる時、すべての亜種名が載っている図鑑はほとんどありません。調べたけれど載っていないければ、ここで初心者は挫折してしまいます。亜種名は初心者に親切ではないのです。

図鑑の鳥の名前は標準和名で掲載されています。亜種名が載っている時は字体が小さかったり、(亜種・・・・)と表示されているのが親切な図鑑です。日本鳥学会による、新しい日本産鳥類リストの作成に伴い、亜種名

は時代により変化しています。ですから、探鳥会や観察会のリーダーになるような人は、このことを充分承知して、標準和名で種名を“呼び”“書く”べきと思います。

亜種で呼んではいけないということではなく、どうしても亜種名で呼ばなければならない時は、亜種・・・・(種名・・・)とすればよいのです。場合によっては亜種名でなければならない時もあります。私はそんな時のことを言っているわけではありません。学術的な分類をしななければならない時とかは別です。

まとめますと、亜種名、種名を混ぜないで統一性のある呼び方をしましょう。そして、初心者に優しい種名で呼びましょうということです。野鳥だより第121号(平成12年9月21日発行)の15ページを参照していただければと思います。



アカゲラ(亜種エゾアカゲラ)筆者撮影

〒068-0834 岩見沢市駒園

7丁目44-37

平成17年度 総 会 報 告

日 時：平成17年4月8日(金) 午後6時30分～7時30分

場 所：札幌市民会館 第6会議室

小堀煌治会長の挨拶のあと、議長に戸津高保氏を選出し、議案審議が行われ、原案どおり可決、承認された。

〈議 事〉

1. 平成16年度事業報告

[総 務]

- (1) 野鳥写真展の開催
開催場所：カメラの光映堂フォトギャラリー
開催期間：平成16年5月8日(土)～24日(月)
出 典：11名、23点
- (2) 「野鳥だより」の発送(136号～139号)
- (3) 新年野鳥講演会、野鳥写真映写会の開催
講 師：小野宏治氏「オロロン鳥からのSOS」
平成17年1月15日(土)
札幌市男女共同参画センター
参 加 者：53名(野鳥写真提供者5名)
- (4) 愛護会名入りカレンダーの作成・販売(70部)
- (5) 探鳥会集合場所案内旗の作成(10本)
- (6) 定例幹事会の開催(各月1回、計12回)
- (7) 傷害保険の更新

[広 報]

- (1) 「野鳥だより」136号～139号の発行
- (2) 愛護会ホームページの維持・運営

[探 鳥]

- (1) 探鳥会26回。参加者累計889名(1回平均34名)

[会 計]

- (1) 平成16年度決算報告
- (2) 平成16年度会計監査報告。大野信明・村野紀雄監事から適正に処理されている旨の報告があった。

2. 平成17年度事業計画

[総 務]

- (1) 野鳥写真展の開催
開催場所：カメラの光映堂フォトギャラリー
開催期間：平成17年4月26日(土)～5月16日(月)
- (2) 「野鳥だより」の発送(140号～143号)
- (3) 新年野鳥講演会、野鳥写真映写会の開催
平成18年1月予定
- (4) 愛護会名入りカレンダーの作成・販売(70部)

- (5) 定例幹事会の開催(各月1回、計12回)

- (6) 傷害保険の更新

[広 報]

- (1) 「野鳥だより」140号～143号の発行
- (2) 愛護会ホームページの維持・運営

[探 鳥]

- (1) 探鳥会27回(宿泊探鳥会を含む)

[役員人事]

井上公雄氏が副会長を退任して顧問に就任すること、山口和夫氏が探鳥幹事に加わることなどが承認された。

[平成17年度役員]

顧 問 谷口 一芳、藤巻 裕蔵、井上 公雄

会 長 小堀 煌治

副 会 長 戸津 高保

監 事 大野 信明、村野 紀雄

会計幹事 蒲澤鉄太郎、清水 朋子

代表幹事 白澤 昌彦

幹 事

(総務)◎中正 憲信、岩崎 孝博、大町 欽子

蒲澤鉄太郎兼、栗林 宏三兼、佐藤ひろみ兼

島田 芳郎、松原 寛直

(探鳥)◎岡田 幹夫、梅木 賢俊、栗林 宏三

後藤 義民、佐藤 幸典、佐藤ひろみ

竹内 強、田子 元樹、富川 徹

成澤 里美、早坂 泰夫、山口 和夫

渡辺 俊夫

(広報)◎樋口 孝城、岩崎 孝博兼、北山 政人

白澤 昌彦兼、高橋 良直、武沢 和義

道場 優、戸津 高保兼、道川富美子

山下 茂 (◎印は各担当の代表者)

会 員 数

	12.4.1	13.4.1	14.4.1	15.4.1	16.4.1	17.4.1
個 人	325	324	339	346	341	349
家 族	31	42	46	42	38	40
団 体	2	2	2	2	2	2
	(387)	(408)	(431)	(430)	(417)	(429)

注：()は個人会員数+(家族会員数×2)

平成16年度 決 算 書

(収入の部)

項目	予 算	決 算	増 減	備 考
繰越金	316,235	316,235	0	
個人会費	660,000	646,000	▲ 14,000	入金7名減
家族会費	120,000	102,000	▲ 18,000	入金6家族減
団体会費	10,000	15,000	5,000	前年度分含む
参加費	30,000	26,500	▲ 3,500	新年講演会参加者53名
売上金	130,000	143,280	13,280	野鳥だより カレンダー他
雑収入	3,765	3,598	▲ 167	宿泊探鳥会剰余 預金利息
合 計	1,270,000	1,252,613	▲ 17,387	

(支出の部)

項目	予 算	決 算	増 減	備 考
印刷費	600,000	521,810	▲ 78,190	野鳥だより印刷
通信費	185,000	168,750	▲ 16,250	野鳥だより郵送料ほか
会議費	40,000	38,640	▲ 1,360	幹事会、新年講演会
消耗品費	90,000	43,853	▲ 46,147	野鳥だより発送用封筒ほか
交通費	16,000	18,500	2,500	野鳥だより発送業務
報償費	92,000	84,550	▲ 7,450	事務所費用 講師謝礼
雑 費	70,000	55,166	▲ 14,834	写真展 傷害保険など
予備費	177,000	10,500	▲166,500	集合場所旗作成
合 計	1,270,000	941,769	▲328,231	

1,252,613 (収入) - 941,769 (支出) = 310,844 (次年度へ繰越)

平成17年度 予 算 書

(収入の部)

項目	本年度 予 算	前年度 予 算	増 減	備 考
繰越金	310,844	316,235	5,391	
個人会費	660,000	660,000	0	330名×2,000
家族会費	120,000	120,000	0	40家族×3,000
団体会費	10,000	10,000	0	2団体×5,000
参加費	30,000	30,000	0	新年講演会 60名×500
売上金	130,000	130,000	0	野鳥だより カレンダー他
雑収入	4,156	3,765	391	
合 計	1,265,000	1,270,000	▲ 5,000	

(支出の部)

項目	本年度 予 算	前年度 予 算	増 減	備 考
印刷費	600,000	600,000	0	野鳥だより印刷費
通信費	180,000	185,000	▲ 5,000	野鳥だより郵送料ほか
会議費	40,000	40,000	0	幹事会、新年講演会
消耗品費	90,000	90,000	0	野鳥だより発送封筒ほか
交通費	18,000	16,000	2,000	野鳥だより発送業務
報償費	92,000	92,000	0	事務所費用 講師謝礼
雑 費	60,000	70,000	▲ 10,000	写真展 傷害保険など
予備費	185,000	177,000	8,000	
合 計	1,265,000	1,270,000	▲ 5,000	



野幌森林公園探鳥会

2005. 2. 6

鈴木 敏 人

2月6日、野幌森林公園の探鳥会に初めて参加させて頂きました。

担当幹事さんの話では、昨年8月の台風による倒木処理をするための重機が入るようになってから、クマガラは姿を見せなくなり、大沢口のフクロウも引っ越したとのこと

でした。先月、個人で公園内を散策したのですが、その時はチェーンソーや作業車の音が響き、エゾユズリハコースでは切られたトドマツが山のように積まれていました。私の素人考えでは道をふさいだ倒木だけを切って運び出し、後は自然に森が再生するのを待てばいいのではないかと思います。森林管理の面から見るとそうはいかないのでしょうか。

大沢口をスタートするとカツラの芽を食べるウソの群れに会いました。エゾユズリハコースに入りしばらくすると「オオアカゲラだ！」と声が上がりましたが私は見逃してしまいました。いつものようにヒヨドリはピーピーと頻りに飛んでいるので、誰かが「ヒヨドリを見るとまたか…と思うんだよね」と言ってました。そうこうしてるとツルのからまった木の影からカケスがチラチラと姿を見せました。聴いたこともない鳴き声をするので「何かのマネをしてる

んじゃない?」「エゾアカガエルの鳴き声?」などと想像が膨らみました。近くのトドマツの枝先から、糸を引いて実のようなものがぶら下がっていました。「何だろう?」と一瞬思いましたが、鳥を見るのに気をとられてその場を過ぎ去りました。しばらくすると先頭を歩いていた方が、先程のぶら下がっていたのと同じものを指して「これはヤドリギの実を食べた鳥の糞です。」と教えて下さいました。よく見ると透明なネバネバしたものの中に赤っぽい種が入っていました。「何だろう?」と思ったことがわかるとうれしいものですね。大沢コースに入り大沢園地付近で、「ハギマシコの群れがいる!」ということでしたが私の双眼鏡ではよく見ることが出来ませんでした。残念に思っていたら、カツラコースを出たところでまたハギマシコの群れがカツラの実を食べているところに遭遇し、その時はフィールドスコープで見せて頂きました。私は初めて見たので感激でした。薄紅色が地味だけどかわいい鳥でした。その他、ツタウルシの実、キタコブシの冬芽やヤエガワカンバも教えて頂きました。一人で歩くよりいろいろ見聞きできたので、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。

〒004-0033 札幌市厚別区上野幌3条6丁目6-8

【記録された鳥】トビ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヒヨドリ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、ハギマシコ、ウソ、カケス、ハシブトガラス 以上 15種

【参加者】今村三枝子、岩崎孝博、岡田幹夫、小西美美枝、斉藤正雄、佐々木泰夫、笹森繁明、四垂義治、鈴木敏人、戸津高保、中正憲佑、濱野由美子、早坂泰夫、原美保、辺見敦子、松原寛直・敏子、宮崎嵩司、山口和夫、山本和昭、横山加奈子 以上 21名

【担当幹事】岡田幹夫、松原寛直

円山公園探鳥会に参加して 2005. 3. 6 鈴木 順子

3月6日、小学生の息子と一緒に円山公園の探鳥会に参加させて頂きました。当日朝は小雪がちらつく生憎の空模様。“天気が悪いし、親子連れはウチだけかな?”と思っていたら、野鳥写真のホームページをお持ちのPさんもお子さん同伴でいらっしゃったので、あれこれお話ししながら楽しく歩き始めました。

まずは開拓神社前の餌台です。幸い雪も止んできたので、カラ類・シメ・アトリなどをじっくり観察できました。今年あまりシメを見ていなかったの、なんだか旧友に会えたように嬉しくなりました。(昨シーズンは“な～んだ、シメか”という態度でしたから、我ながら現金なものです・・・)それにしても餌台の屋根近くまで雪が積もっていたのにはビックリ!去年の同時期より雪が多いのが一目瞭然でした。

それから、例年ウソが見られるという梅林へ移動しましたが、除雪作業の真っ最中で凄いい騒音。残念ながら観察どころではありませんでした。それでも東側駐車場近くのス

ギ林ではクイタダキを見ることができました。双眼鏡を覗くと木陰で動く可憐な姿、頭頂部の黄色がチラッチラッと見え隠れています。観察しながら“上から見たら黄色が目立って狙われてしまうのでは?”などと余計な心配をしていると、駐車場で「猛禽が出た!?’と声が上がりました。慌てて見上げれば、白っぽい鳥影が8羽ほど。結局、正体はオオセグロカモメと判明しましたが、円を描いて優雅に飛んでいる姿はまるでスカイダイビングチームの演技のようでした。“あんなに高く上がれたら気分がいいだろうな、札幌の街並みはどんな風に見えるんだろうか?”などと子供じみた空想をしつつ、動物園方面へ向かいました。

動物園前からは円山川沿いを二手に分かれて探鳥です。私たち親子連れは木道コースを行いました。なかなか鳥影は現れず、つつい四方山話に花が咲きます。川向こうではハギマシコやウソやら観察している模様。“羨ましい!”と聞いていましたが、先頭を歩いていた方に教えて頂いて、最後には大師堂の屋根の上で休んでいるハギマシコを見ることができました。

自分ではなかなか鳥を見つけられなかったのですが、諸先輩方に教えて頂いて楽しく観察できました。幹事の皆様、参加者の皆様、ありがとうございました。

〒063-0004 札幌市西区山の手4条10丁目2-23-303

【記録された鳥】トビ、オオセグロカモメ、コゲラ、アカゲラ、ヒヨドリ、クイタダキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、アトリ、カワラヒワ、マヒワ、ハギマシコ、ウソ、シメ、スズメ、ハシブトガラス、ドバト 以上 21種

【参加者】赤沼礼子、五十嵐加代子、井口真里子、板田孝弘、井上公雄、岩崎孝博、岡田幹夫、蒲澤鉄太郎、北森明、小堀煌治、島田芳郎・陽子、白澤昌彦・瑠美子、鈴木順子・耀介、武田由里子・雄太、武沢和義、高宮まゆみ、高橋良直、高栗 勇、田中孝子、田辺 至、戸津高保・以知子、長谷川嘉子、畑 正輔、広木朋子、宮崎嵩司、山口和夫、山田甚一、山本昌子、横山加奈子 以上 34名

【担当幹事】武沢和義

「人も鳥も一期一会」 (ウトナイ湖)

2005. 3. 27 中 嶋 慶 子

一年振りのウトナイ湖は春の光が湖面にきらめき、湖の奥に陣取っているマガンやヒシクイのおしゃべりが聞こえ足元には白鳥やオナガガモの群れが賑やかに戯れている。林の方からヒヨドリやウソ、アトリの混群が遠慮がちにさえずっていた。今年は雪が多く春は遠いと思っていたが自然はすっかり春を迎えていた。鳥は恋の季節を迎えており婚姻羽根が美しいものが多かった。

冬羽根から夏羽根に変わったシロカモメが青空の中時折なごり雪が舞う中にゆったりと羽ばたく姿は本当に美しく、じっくり見た事は私にとっては始めてであった。図鑑で見るとカモメ類で1番大きく、L71cmW160cmと一緒に見ら

れたカモメとはWは50cmも違っていた。カモメと云えば北海道ではいつでも見られるが沖縄の海でカモメが見られず案内人に聞いたらかモメは旅鳥で冬になったら見られると教えられへえ〜と感心した。日本は細長い国だった事を忘れていた。

いつも身近に見るオナガガモの雄の尾羽根はこの時期空に向かってピンと伸ばし雌にアピールしている。羽根は渋い鮫小紋を粹に着飾って黄色の蹴出しがのぞいていて、女性ウオッチャー同士「かっこいいネー」と感心して見入っていた。

向かいの岸に羽根もまばらのオジロワシが二羽何度も魚をねらって失敗ばかり、浅瀬にしょんぼりとたたずんでいる姿も見られた。お腹すいているけど誰もエサは運んでくれない人間よりも生きる力を試めさせられている気がした。

幹事さんのプロミナーにオオヒシクイ、ヒシクイ、マガンがワンショットで入っていた所を見せていただいた。この種類は飛んでいたら区別が難しく、一緒に見られる事はラッキーでした。オオヒシクイは1番大きく、おでこと嘴までならかな事、図鑑で教えて納得した。バードウォッチングは色々な鳥に逢えることですが同じ趣味の仲間が気兼ねなく一緒に図鑑見たり、プロミナーをのぞかせてもらったり、鳥の話に花を咲かせたり、自然の中で楽しいひとときを共有できることだと思います。「人も鳥も一期一会」身体の中の悪い空気を全部入れ替えてきた一日でした。幹事さんお仲間の皆様ありがとうございました。

〒065-0032 札幌市東区北32条東2丁目1-14-504

【記録された鳥】ダイサギ、アオサギ、トビ、オジロワシ、オオワシ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、コハクチョウ、ヒシクイ、マガン、ヒドリガモ、ヨシガモ、コガモ、マガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、シロカモメ、コゲラ、ヒヨドリ、ツグミ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、アトリ、ウソ、シメ、スズメ、ハソボソガラス、ハシブトガラス 以上 34種

【参加者】赤沼礼子、荒木良一、板田孝弘、岩崎孝博、氏家正毅、片山 實・慶子、蒲澤鉄太郎、川東保憲、北森明、栗林宏三、小西美美枝、小堀煌治、笹森繁明、品川睦生、島田芳郎・陽子、鈴木順子・耀介、高栗 勇、高橋良直、武田由里子・雄太、田中哲郎、道場 優、戸津高保、中正憲倍・弘子、中嶋慶子、畑 正輔、濱野由美子、樋口孝城、松原寛直・敏子、村上トヨ、村田静穂、安 真一郎、山口和夫、山田良造、横山加奈子 以上 40名

【担当幹事】道場 優、栗林宏三

野幌森林公園探鳥会に参加して

2005. 4.10 今 井 登

私は、野幌の森には、家から近いのでときどき来ています。いつも特別に何かを見ようとも聞こうともしないでただ歩くだけ、ガツガツしないで、いつか「あーいたね」くらいで満足しているような気がしていましたが、年間を通

し森林に入っているの、何かを少しでも知ろうと思い、今回探鳥会に出席させていただきました。

4月10日9時と計画されているので新聞の天気予報を見ると、朝から雨で昼ころからは、激しく降るとある。なんで、初めての出席が「雨天とはな」と思いながら、天気予報も、はずれることもあり、曇くらいですむようにと願いながら家を出ました。出発するころには、20余名くらいの人達が集まり、残雪ある林道に足を入れる。はじめは、足元が気になり、いつもとは少々ちがっていたのか、雨は激しくなってきたようだ。積雪は、例年の3月中旬並みの量でやはり多かった。あまり、遠くは見えないが前後の人達が、シジュウカラとかコゲラをみつけて指を差してくれたが、私には見えない。他の方に見えているのに私には見えないことが何度かあった。もう小さすぎて種名までは判然としない。やっと、小枝の中のあいだに、その鳥を見つけることができ、足元から手をのばせば届きそうな低い枝に、スズメくらいの小さなシジュウカラが3、4羽、せっせと何かをついばんでいた。木の新芽があるのか、森に葉の無い今は、野鳥を観るのは、いいが、ほとんど声だけ、姿をとらえても色等は、とらえづらいから皆さんのあとを追う。昨年9月の台風で植林された大木が根こそぎ倒れ空地になっていた。そうして、フクロウを身近かに見せていただく。また道路の雪面から何メートルか上の位置に穴だけになった樹木に真新しい食痕、しかし、鳥の姿は無い。木くずが雪面に散らかっている所が、2、3ヶ所あったが、この冬に作ったのだろう。周囲におびただしい人間の足跡があり、見物人が多いのだろうと思いつつ……。今回参加して、木々の新芽は、ふくらみはじめ、春が間近なことが実感できました。森林や自然の中で過ごすことの楽しさを、いま以上に、孫達にも知らせてやろうと思いつつながら、参加の皆様の明るい声を聞いていました。指導して下さった方々に感謝しながら、つぎも参加させていただきたいと思っております。

〒004-0001 札幌市厚別区厚別東1条5丁目2-5

【記録された鳥】アオサギ、フクロウ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、ウソ、カケス、ハシブトガラス 以上 14種

【参加者】赤沼礼子、今井 登、今村三枝子、大松洋子、岡田幹夫、蒲澤鉄太郎、北森 明、小西美美枝、品川睦生、島田芳郎、白澤昌彦、鈴木正之、戸津高保、蕨澤千代、辺見敦子、松原寛直・敏子、安田のみ子、安 真一郎、山口和夫、横山加奈子、吉田慶子 以上 22名

【担当幹事】松原寛直、岡田幹夫

宮島沼探鳥会

2005. 4.24 白 澤 瑠美子

4月24日宮島沼の探鳥会にお友達と参加させていただきました。前日(23日)札幌は、冬へ逆戻りした様なあいにくの天候でしたが、以前から、この日は新篠津にあるたつ

ぶの湯に宿泊し、夕方宮島沼に戻るマガンの様子を見る計画をしておりましたので出掛けました。

たっぶの湯でひと休みし、夕方マガンを見るため出発しました。宮島沼へ向かう途中、水田の中でエサをついばんでいる沢山の白鳥を発見！PM6:00頃(少し遅すぎました。5時頃から待っていた方がより迫力あるマガンを見る事が出来たと思います)宮島沼へ到着と同時にいっせいに帰って来るマガンの様子を初めて見たお友達は、とても感動しておりました。勿論私もです。

白鳥とマガンの感動を心の中に留め今晚の宿、たっぶの湯へ戻り、美味しい料理をいただきながら、ビールを飲み、お友達とのたのしいおしゃべりそして温泉につかりと何とも幸せな一日となりました。翌日の探鳥会は前日の天気は何だったの?という程気持ちよく晴れ、とても暖かな一日となりました。探鳥会初参加のお友達も、初めて見るアオサギのきれいさに驚き、マガンやキンクロハジロ、オナガガモ等の見分け方を、会員の方に親切に教えていただき、とても楽しい探鳥会でした！

新緑の頃、森林浴をしながら小鳥のさえずりを楽しみ、野幌森林公園の探鳥会にまた一緒に参加出来たらいいなと思っています。

〒064-0917 札幌市中央区南17条西18丁目2-20

【記録された鳥】アオサギ、トビ、オオハクチョウ、ヒシクイ、マガン、カリガネ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、コガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カモメ、ユリカモメ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、モズ、ノビタキ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

以上 32種

【参加者】赤沼礼子、阿部和子、今泉秀吉、岩崎孝博、白田 正、岡田幹夫、蒲澤鉄太郎、亀井厚子、北山政人、北森 明、後藤義民、小堀煌治、小西美美枝、斉藤照子、佐々木 裕、佐藤幸典、白澤昌彦・瑠美子、品川睦生、鈴木順子・耀介、高田征男、武田雄大・由里子、高橋良直、高橋文彦・むつ子、戸津高保、浪田良三、成澤里美、早坂泰夫、濱野由美子、辺見敦子、松原寛直・敏子、宮崎嵩司、村上トヨ、山口和夫、山田としえ、山田良造、柳川 巖、山本和昭、山本昌子、横山加奈子、吉村 望、和久雅夫

以上 47名

【担当幹事】小堀煌治、佐藤幸典

野幌森林公園探鳥会に参加して

2005. 5. 1 遠山 あづさ

道北から江別に移り住み1年半、野外で鳥を観始めて半年目、かねてから近場でどんな野鳥(または観ている方々)がいるのか参加してみたいと思っていた野幌での探鳥会ですが、やっと今回、参加させていただくことができました。

お天気はあいにくの雨ですが。集合時間にはもう大勢の方々が。5月の連休といえは北海道では春の渡りの季節、

これから本州に向かう、または夏鳥としてやってきたばかりの鳥達にどれだけ会えるのか、とみなさんウキウキされてるのでしょうか。私は屋外での野鳥観察はまったくの初心者なのですが、せっかく探鳥上級者の方々といえるのだから今日はたくさん観よう！とみなさんの後ろについていきました。あ、またみなさん立ち止まって、いっせいに同じ方向を双眼鏡で観ている。なにがいたのですかー？

と、まあそんな感じで後ろをチョロチョロとくっついていった結果、ルリビタキ(♂若鳥?♀?)、センダイムシクイ、キバシリなど自分一人で歩いていたら見逃してしまうような鳥達を観察できました。さすがにカーブを曲がったところですぐ近くの枝にいたオオルリ♂は、私にでも見つけられましたが、オオルリ♂はこれからの時期、高い樹のてっぺんでさえずり、自分のなわばりを主張しているものなのだそうです。おそらく野幌に着いたばかりだから低い所で偵察している最中なのだろうね。というお話もうかがったり。なるほど。キクイタダキは本日が今年の野幌初確認とか。

そして最後にみなさんでチェックシートの記入です。おお、これが話に聞いていた〈鳥合わせ〉ですね？ミソサザイもコマドリもいたそうですが、確認できませんでした。残念。

今回は、本当に一人で歩いているだけではなかなか出来ない体験ばかりで、とても勉強になる、楽しい一日を過ごさせて頂きました。ありがとうございます。

〒069-0833 江別市文京台56-4 ソニア56A-201

【記録された鳥】アオサギ、トビ、オオセグロカモメ、キジバト、アオバト、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、ミソサザイ、コマドリ、ルリビタキ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、キクイタダキ、キビタキ、オオルリ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アオジ、カワラヒワ、ウソ、ニューナイスズメ、カケス、ハシブトガラス

以上 31種

【参加者】赤沼礼子、井上公雄、今村三枝子、岩崎孝博、牛込直人、大浅尚子・理絵、大槻日出、岡田幹夫、尾崎脩、川村宣子、後藤義民、小西美美枝、小山久一、佐藤美栄子、品川睦生、島田正雄・真智子・しげ子、四垂義治、高田征男、高橋利道、高橋良直、田中志司子、田辺 至、遠山あづさ、戸津高保、長尾由美子、野坂英三、羽田野鉄平・絹子・良子、原 冴子、樋口孝城、辺見敦子、堀さち子、松原寛直・敏子、吉田慶子、山口和夫、山本昌子、横山加奈子

以上 41名

【担当幹事】後藤義民、岡田幹夫

私の大好きな野鳥

(藤の沢探鳥会)

2005. 5. 5 円山小学校5年 木口 綾乃

私は、この間近所のおじさんとおばさんに探鳥会にさそっていただき初めて参加しました。

集合場所にいた時、わくわくしていました。みんな集合してよいよ出発、会長さんに続いてほんの少し行くと、「イカル」が20mほど先に止まっていた。私は、最初に見た鳥なのでノートを取り出して、スケッチしました。

どんどん山の中に入っていくにつれて鳥の鳴き声が沢山きこえてくるようになりました。「ヒヨドリ」をとて近くで見ることができました。また、少し水のたまっている所に、山しょう魚のたまごやかえるのたまごもありました。そのうち「シジュウカラ」や「ゴジュウカラ」などの鳥が木のみきを小走りに上がったりがったりしてました。

私は、沢山の鳥を見ながら一番いいシャッターチャンスをとっていました。山おくにいくにつれて私たちの周りには、沢山の鳥が鳴くようになりました。

そして頂上につくと私は、ゆっくりと一服しました。まわりは、木だけでも上だけぼかんとあいていて「トビ」などがとぶすがたも見られました。

一休みしてから山を下り始めました。帰り道には、きれいな花が咲いていました。その花は、「ふくじゅ草」と「えんれい草」と「なにわす」です。どれもきれいな花を咲かせていました。

最後に「コゲラ」をすごく近くで見ました。残ねんながら「コゲラ」の写真を撮ることは、むりだったのですが、近くで見られたことがうれしかったです。私は、鳥にあまりきょう味がなかったけれど探鳥会に参加して野鳥が好きになりました。参加してよかったと思いました。

〒064-0803 札幌市中央区南3条西25丁目2-5-802

【記録された鳥】トビ、キジバト、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、ルリビタキ、ツグミ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、キクイタダキ、オオルリ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、アオジ、アトリ、カワラヒワ、マヒワ、イカル、シメ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上 33種

【参加者】赤沼礼子、板田孝弘、岩田三紀、岩崎孝博、岡田幹夫、尾崎 脩、梶本兼吉、勝俣征也・由美子、加藤千春、菊池佐和子、木口わたる、木口綾乃、河野美智子、後藤義民、小堀煌治、佐々木 裕、品川陸生、島田芳郎・陽子、須田 節、高橋きよ子、武沢和義・佐知子、立田節子、戸津高保・以知子、中正憲信・弘子、早坂泰夫、樋口孝城、辺見敦子、松原寛直・敏子、三浦とも子、村上 峻、山口和夫、渡辺幸子 以上 38名

【担当幹事】小堀煌治、戸津高保

千歳川周辺早朝探鳥会

2005. 5. 8 高屋敷 征子

早朝探鳥会は初参加でした。会員歴10年の私ですが、数年はうれしい会員で恥ずかしく思っていました。このコースは、私が初めてヤマセミを見て夢中になり足しげく通った懐かしい思い出の地で、今でも春と秋には1人で散策しています。自宅を出る時、雨が降っており心配しながら

ら向かい、着いてビックリ！車がいっぱい。熱心な会員さんばかりなのですね。飛び込みみたいな私に皆さん親切にアドバイスを頂きホッとしました。曇り空のせいかうす暗いのにベテラン会員さん達が、次々と鳥の居場所を教えて下さいます。1人で探すのと違った楽しさを味わいました。歩き始めてすぐヤマセミが目の前を飛び、キビタキが美しい姿を見せてくれ、その場を立ち去りがたくも歩き始めるとすぐに誰かの声が、オオルリで一すと。今年初のお目通りで感激！キバシリ、アオジ、センダイムシクイはたくさんお目通り。クロツグミの誇らしげにさえずる姿。鳥合わせで49種も見れたとの事。私が確認出来なかったのが10種ありましたが、とても有意義な4時間半でした。私の好きな鳥の一つベニマシコを見落とすのが残念でした。6月からは山歩きに専念しますが、5月22日の鶴川河口には水鳥に弱い私、又、ベテランさん達のお世話になろうかと、今から楽しみにしています。悪天候にならないことを祈って……。ありがとございました。

〒003-0836 札幌市白石区北郷6条4丁目3-13

【記録された鳥】アオサギ、トビ、ハイタカ、オシドリ、ヒドリガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、キンクロハジロ、オオセグロカモメ、キジバト、アオバト、ヤマセミ、カワセミ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、カワガラス、コルリ、ルリビタキ、クロツグミ、シロハラ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、ベニマシコ、ニューナイスズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス

以上 49種

【参加者】板田孝弘、今村三枝子、岩崎孝博、氏家正毅、岡田幹夫、加藤文夫、加藤千春、蒲澤鉄太郎、川東保憲・知子、川村宣子、栗林宏三、小山久一、佐々木英之・玲子・七菜、品川陸生、島田芳郎・陽子、白澤昌彦、高橋利道、高橋良直、高屋敷征子、田中哲郎・洋子、道場 優、徳田和美、徳田恵美、戸津高保・以知子、中正憲信・弘子、長尾由美子、畑 正輔、原 美保、広木朋子、松原寛直・敏子、安 真一郎、山形裕規、山口和夫、山田良造、山本和昭、吉田慶子、横山加奈子 以上45名

【担当幹事】白澤昌彦、栗林宏三

野幌森林公園探鳥会

2005. 5. 15

【記録された鳥】マガモ、キジバト、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ミソサザイ、コルリ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、ニューナイスズメ 以上 26種

【参加者】赤沼礼子、今村三枝子、岩崎孝博、上田貴子、

内田 孝、尾崎 脩、数田真弓、かずたなおゆき、蒲澤鉄太郎、後藤義民、澤田、品川睦生、高橋利道、遠山あづさ、戸津高保、中正憲佑・弘子、成澤里美、信國美恵、橋本翠柚、畑 正輔、早坂泰夫、広木朋子、辺見敦子、松原寛直・

敏子、村上トヨ、森下憲治、山口和夫、山本昌子

以上 30名

【担当幹事】 中正憲佑、後藤義民



【福 移】 2005年7月3日(日) 草原や河畔林での夏鳥たちの繁殖は後半戦から終盤へと入り、巣立ってから間もない幼鳥が見られる時期です。また、2回目の繁殖をしている親鳥たちのさえずりや

餌運びも合わせて見られます。石狩川と豊平川の合流点ではショウドウツバメが飛び交い、運が良ければ河岸の木にとまるカワセミも見られるかもしれません。カッコウの声を聞きながら、初夏の草原、河川敷、土手道でゆっくりと探鳥をします。

集 合＝中央バス福移入口停留所付近 午前9時 (係が愛護会の旗を掲げています)

交 通＝地下鉄東豊線環状通東駅発 中央バス(北札苗線) 福移入口下車

【野幌森林公園】 2005年7月10日(日)、9月11日(日) 初夏と初秋の野幌森林公園を楽しみます。キツツキ類やカラ類の留鳥に加え、ウグイスやセンダイムシクイなどの夏鳥たちが、7月には繁殖期後半に入って、まだまだ忙しく飛んだりさえずったりしていますし、9月にはそろそろ秋の移動の準備に入っているところです。同じ鳥でも7月と9月では違う表情を見せてくれます。

集 合＝野幌森林公園大沢口 午前9時

交 通＝JR新札幌駅バスターミナル発

夕鉄バス(文京通西行)大沢公園入口下車

徒歩5分

JRバス(文京台循環線)文京台南町下車

徒歩5分

【鶴 川】 2005年8月21日(日)、9月4日(日)

鶴川河口付近の自然干潟や人工干潟でのシギ・チドリ類の観察が主目的です。かつて鶴川河口には大きな干潟が形成され、春と秋には渡り鳥のオアシスとなっていました。近年は海岸侵食が進み、干潟もほとんどなくなってしまいました。それに伴い、観察されるシギ・チドリも少なくなってきました。でも、自然干潟の再生、人工干潟の造成などで、往年の鶴川の復活をめざす地元の人たちとともに、探鳥会は続けられています。

集 合＝JR日高線鶴川駅前または鶴川町「四季の館」

駐車場 午前9時30分

鶴川駅前に集合してから「四季の館」駐車場に

移動します。直接「四季の館」駐車場に行かれても構いません。

交 通＝JRと道南バスが利用できます。各自でお確かめ下さい。JRやバスで鶴川駅前に来られた方は、係の車で「四季の館」駐車場へ移動となります。

☆いずれの探鳥会も悪天候でない限り行います。

☆昼食、雨具、観察用具、筆記用具をお持ち下さい。

☆探鳥会の問い合わせ

北海道自然保護協会 011-251-5465

午前10時～午後4時(土・日祭日を除く)

鳥民だより

◆平成17年度野鳥写真展出展者・作品◆

荒木 良一	ツツドリ、ユキホオジロ
片山 實	オジロワシ、ホオアカ
小堀 煌治	アカショウビン、クイナ
笹森 繁明	タンチョウ
高橋 良直	シマアオジ、コミミズク
村上 トヨ	コミミズク、ヨシガモ
山田 良造	ハイイロウミツバメ、ケイマフリ
	以上 7名 13点

【新しく会員になられた方】

田中 洋	〒065-0031
皇丞 雅子	札幌市東区北17丁目5-26-102
阿部 真美	
菊地 敦子	〒069-0855
	江別市大麻町6 R26-403
鈴木 幸弥	〒063-0004
耀介 順子	札幌市西区山の手4条10丁目2-23 A303
大島 武	〒078-1332
	上川郡当麻町宇園別二区
小澤 良之	〒069-0815
	江別市野幌末広町39-2
	オクタワーズ江別野幌ウエストタワー II 806
北森 明	〒044-0081
	虻田郡倶知安町字山田204 ロッジ白樺

〔北海道野鳥愛護会〕 年会費 個人2,000円、家族3,000円(会計年度4月より)

郵便振替 02710-5-18287

〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011)251-5465

HPのアドレス <http://homepage2.nifty.com/aigokai/>